赤ちゃんの四季（4）　平成14年春

新学期と不登校（園）

桜のつぼみも膨らみ、陽春の訪れを感じる今日この頃です。動物も、植物も動きが活発になります。子どもたちは、太陽を求めて屋外に飛び出したくてうずうずしています。

4月は、子どもたちが大きく羽ばたきはじめる季節でもあります。新入園、新入学、新学期と新しい世界に向けてのスタートにつきます。幼稚園も、小学校も子どもたちにとって一番大きな世界です。子どもたちはここで社会性を学び、立派な社会人への第一歩をしるします。新しく、慣れない環境での生活は、子どもたちにとって大きなストレスとなり、1か月ほど経つと不登校（園）という訴えで、小児科の行動発達外来へやってきます。

親から離れて生活できない不登校（園）は、乳児期に十分な信頼感を獲得できなかったことが原因しているかもしれません。無理やりに登校を強いるのは、全く逆効果です。ますます、お子さんを不安に陥れてしまいます。家庭でしっかりと子どもさんを抱きしめてやって下さい。

子どもは、生まれて最初の1年間に両親あるいは周りにいる大人たちにより、温かくみまもられながら育てられて、基本的信頼感を形成します。もしここで、虐待やネグレクトといった不幸な出来事が児に襲いかかると、その傷は児の生涯にわたるトラウマとして、児のこころに深く刻まれてしまいます。

「3歳児神話」がよく話題になります。なんの科学的根拠もなく、女性を家庭に縛りつけるための男性の方便のようなとらえられ方がされます。私は、3歳までの子育てこそが、児の生涯を通じて最も大切な親の役割と考えています。お仕事の関係などで、親がどうしても育児をできない場合は仕方がありませんが、少々の犠牲を払ってでも、わずかな時間でもいいですからお子さんのそばにいてやって下さい。子どもは、たいへん感性に富んでいます。時間の長短ではなく、親が自分の貴重な時間を割いて、自分に目を向けてくれていると感じること、これが子どもに信頼感を植え付ける鍵です。